

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

令和7年3月13日
南丹市長

市町村名 (市町村コード)	南丹市 (262137)
地域名 (地域内農業集落名)	園部町摩気地域 (竹井、仁江、船阪、大西、宍人、半田、口人、口司)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月8日 ~ 令和6年12月27日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題※

当地域は農業者の高齢化が進み遊休農地の更なる増加が懸念されることから、新規就農者を確保・育成しつつ地域住民等を交え地域全体で農地を利用していく仕組みの構築が喫緊の課題である。また、各農家が農業機械を購入し農作業を実施している非効率な現状もあり、機械の共同利用を進める必要がある。さらに後継者の不在などによる農地の保全管理の問題、鳥獣害被害による営農意欲の低下も課題である。

※は実質化された人・農地プランと同程度の項目です。以下同じ。

(2) 地域における農業の将来の在り方※

特段の特産品がなく小規模農家が多い、規模拡大を考えている農業者も少ないため、農地中間管理事業を活用した認定農業者への貸し付けを進めて行き遊休農地の拡大を防ぎたい。また、農地の集積・集約を促進し、地域内外から農地を利用するものを確保し、地域の農業に対する意思統一と新たな担い手が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。さらに既存農家も可能な範囲で地域で取り組める作物を模索し、その上で労力の高い草刈り等の作業を個人、法人に委託することで維持管理に努めていきたい。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	281.9 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	280.0 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及び農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針※
農地中間管理機構を活用し、認定農業者や認定新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手へ農地集積を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針※
地域の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。また、現在活用している農地中間管理機構を通じた認定農業者への貸し付けをさらに進める。
(3)基盤整備事業への取組方針※
現在基盤整備事業の活用の見込みはないが、必要性がでてくれば地域での協議の上活用を検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針※
既存の新規就農者や担い手をしっかりとつなげるにより情報交換の機会を設ける。また、地域内にて農地を守る人材育成に努め、農地の有効活用を目指す。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の活用方針
地域内での農作業の効率化を図るため地域内有志の団体に耕作を依頼し、遊休農地の発生防止を図る。一部作業は中心経営体等に依頼することで作業負担の軽減を図る。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策※	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	
【選択した上記の取組方針】				
① 獣害が拡大しないよう防護柵を維持管理するとともに、目撃情報や被害情報があった場合には速やかに対応できる体制を構築する。併せて地域内外から捕獲人材の確保・育成を進める。				
② 現在も有機農業に取り組んでいるが、対象農地の拡大を図りたい。また、化学肥料や農薬を減らしていく。				
③ 地域農業に合致したスマート農業を進める。				
⑧ 担い手の営農や農業を担う者の利用状況などを考慮し、出荷・調製施設など農業用施設の集約化を進める。				